

グリーンパートナーシップを構築し、効果的かつ継続的な環境保全を推進しています。

効果的な環境保全を行うには、リコーグループだけでなく、仕入先企業やお客様とのパートナーシップによって「事業活動全体」の環境負荷削減に取り組むことが重要です。また、継続的な環境保全のためには、お互いにメリットのある関係を構築し、パートナーシップを維持・向上していく必要があります。持続可能な循環型社会づくりに貢献するために、私たちは、リコーグループのグローバルな事業活動に関わるすべての関係者をグリーンパートナーと位置づけ、効果的かつ継続的な環境保全に取り組んでいます。

公園づくりで行政機関を支援  
《リコーアジア・パシフィック/  
シンガポール》

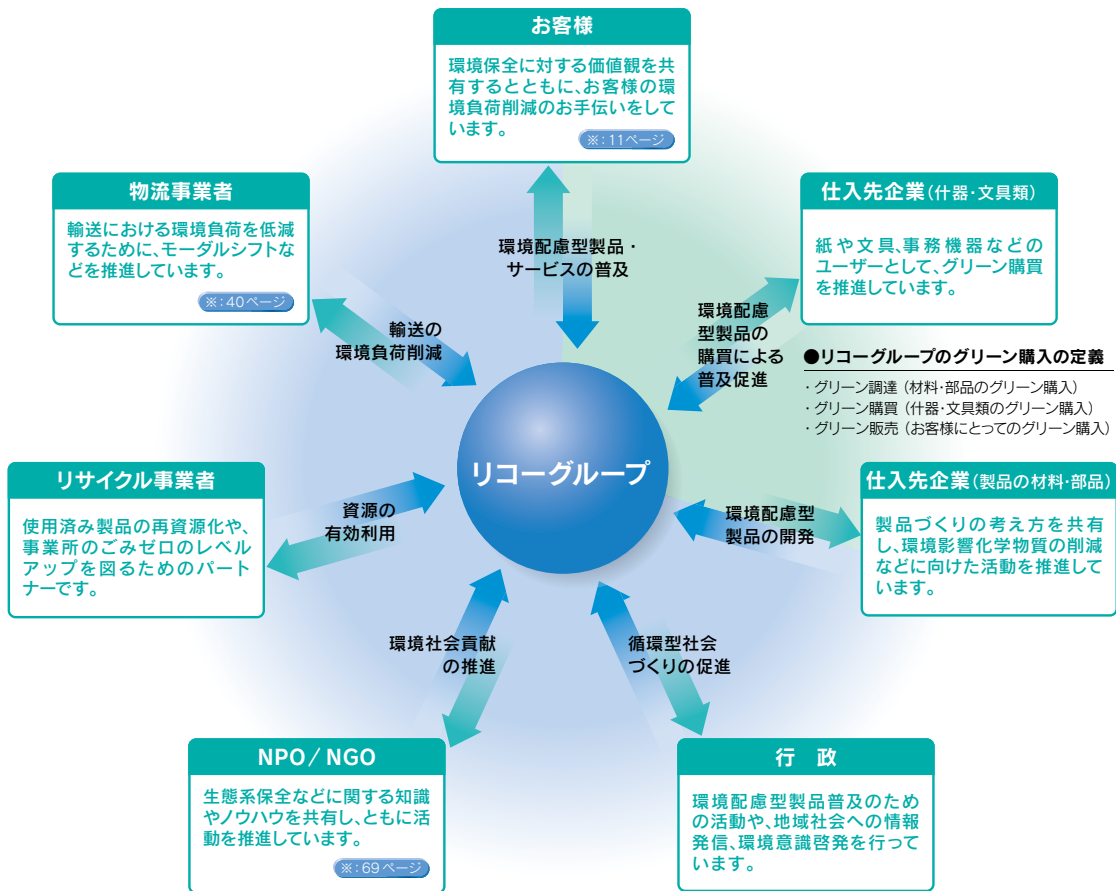
2005年10月、シンガポールを走る地下鉄(MRT)のタンジョン・バガー駅上に「タンジョン・バガー・リコーパーク」が開園しました。これは、アジアパシフィック極の地域統括会社リコーアジアパシフィック(RA)が、シンガポール政府・国家公園局と共同で建設したものです。ビジネス街にある主要な公園を緑化し、働く人々の憩いの場に

ようというシンガポール政府の呼びかけに対して、RAが環境・社会貢献の一環として総工費の一部を支援しました。公園には、ブーゲンビリアやヘリコニアなどの草木が植えられ、リコーの使用済みトナーカートリッジをリサイクルしてつくられたベンチ20基が設置されています。



リコーパーク開園式の様子

リコーグループのグリーンパートナーシップ



## INTERVIEW

仕入先企業に聞く

トリプルAコンテナズ様

**リコーエレクトロニクスの支援でゴミゼロを達成。  
ゴミゼロを地域社会や取引先に広めていきます。**

アメリカの生産会社リコーエレクトロニクス (REI) のカリフォルニア工場は、環境保全を通じたリコーのブランド価値向上の一環として、仕入先企業のごみゼロ支援を展開しています。REIに複写機などの梱包材を納入しているトリプルAコンテナズ様にお話をうかがいました。ゴミゼロを達成したトリプルAコンテナズ様は、セリトス市の市長から表彰も受けています。

**REIのノウハウを取り入れ、  
5R活動や社員の意識啓発を展開**

カリフォルニアは環境先進州ですが、まだ社会に「ゴミゼロ」の考え方は普及していません。私がはじめてゴミゼロについて知ったのは、2001年3月にREIが達成した時でしたが、ゴミゼロの重要性を強く意識し、本格的な活動を開始したのは2005年4月のことでした。REIからゴミゼロ推進のための5R\*の考え方やプロセス構築の方法を学び、環境方針の策定、ごみ分別センターの設置、リサイクル事業者の選定などを行いました。とくに注力したのは社員の意識啓発です。分別という行為や、分別方法についての理解をさらに深めることで、会社だけでなく、家庭でも環境意識の高い行動をとることができます。

\* リコーグループは5R (Refuse, Return, Reduce, Reuse, Recycle) の考え方に基  
づいて、ゴミゼロのレベルアップを図っています。



トリプルAコンテナズ  
社長兼最高経営責任者  
**Brad McCroskey** 様 (左)  
同社のごみゼロを支援した  
リコーエレクトロニクス購買部門  
**Arthur G. Molina** (右)



工場内にあるごみ分別センター

**ゴミゼロ活動の推進で、  
お客様や地域社会の注目も集める**

私たちは、企業責任としてゴミゼロに取り組んできましたが、経済的な効果のあることも実証されました。2005年8月にゴミゼロを達成して以来、5カ月で6万ドルのコストを削減しました。また、活動を通じて、社員のマナーが向上するという波及効果もありました。こうした当社の活動は、お客様や、セリトス市の行政機関からも注目されています。さらに2月には、フロリダ州で7社の同業他社に対してゴミゼロのプレゼンテーションを行いました。私たちは、今後も、自社のごみゼロ活動のレベルアップを図るとともに、地域社会や取引先へもゴミゼロ活動を紹介していきたいと考えています。

**仕入先企業のCO<sub>2</sub>削減活動を支援  
《リコー／日本》**

リコーでは、仕入先企業と一体となって、環境経営に取り組み、グリーン調達を推進、仕入先企業のEMS構築などを行ってきました。2004年からは仕入先企業の化学物質マネジメントシステム構築支援を行い、2006年3月末までに世界の仕入先企業728社(1,669サイト)の認定を完了しました。さらに2005年からは、仕入先企業のCO<sub>2</sub>

削減活動の取り組みに着手しました。リコーでは、事業活動全体の環境負荷を削減することを目標に掲げていますが、中でも原材料や部品調達工程での環境負荷は全体の約2分の1を占めるため、仕入先企業と一体となった積極的な削減活動が急務となっています。

CO<sub>2</sub>削減活動の第1段階として、仕入先企業の部材製造工程でのCO<sub>2</sub>排出量の数値化を行うため、算出基準を設定し、試行しました。第2段階では、プロセス改善などの具体的な削減ノウハウを蓄

積し、業種間で共有する仕組みづくりを行っています。2006年度は、仕入先企業が独自にCO<sub>2</sub>を算出できるツールを開発・提供し、改善活動に有効に活用してもらおうよう準備を進めていきます。さらに2008年度以降は、仕入先企業の環境経営を一步進める意味で、CO<sub>2</sub>削減の数値目標を設定し、さらなる活動の推進をお願いしていきます。